

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 平和施策の推進	② 施策番号	1505
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 市民すべてが平和を希求するとともに、互いの存在を尊重し信頼しあい、いかなる差別もなく、一人ひとりが大切にされる人権文化のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 恒久平和の実現		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
総合政策部	人権推進課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	戦争の悲惨さを認識し、日々の生活の中では意識することの少ない命の大切さや平和の尊さについて理解を深める。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	憲法改正の動きや世界各国の平和に対する意識が高まっている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 「市民の集い」への参加者数 計算式	人	「市民の集い」への参加者数により、平和施策に係る啓発の実効性を量る。
② 計算式	日	
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 「市民の集い」への参加者数	人	目標値	300	300	500	500	500	H30年度は、知名度の高い講師による講演会を実施したため、参加者の増加につながった。
		実績値	262	530	700	—	—	
		達成率	87.3%	176.7%	140.0%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性
1	平和事業	参加者数	人	530	700	300	1,944	2,358	2,297	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						1,944	2,358	2,297			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	時代の流れとともに戦争体験者が減少し、戦争の悲惨さを知る人が少なくなっている。戦争を知らない世代への啓発を行い、平和の尊さを学ぶことで、戦争を繰り返すことなく、恒久平和を実現させる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	「非核平和の集い」への参加は、平和意識の高揚につながり、事業内容によって参加数に大きく影響するため、引き続き市民ニーズを検討していく必要がある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	現状では適切と考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	現状では適切と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	本市は、非核平和都市宣言を行っており、本施策は重点化して取り組む必要がある。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	
一次評価	B	時代の流れとともに戦争体験者が減少しており、今後とも戦争を知らない世代へ平和の尊さを伝え、恒久平和を実現していく必要がある。	<p>A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる</p> <p>B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている</p> <p>C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある</p> <p>D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある</p>

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	市民ニーズに即した事業内容の検討を行っていく
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	—
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	
二次評価	B	「市民の集い」への参加者数が増加しており施策達成に向けた取組が適切に行われている。 引き続き、参加者の定着や増加による啓発活動を通じた平和施策の推進に向けた取組を進められたい。	<p>A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる</p> <p>B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている</p> <p>C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある</p> <p>D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある</p>